

# かたりべ122

豊島区立郷土資料館・ミュージアム開設準備だより

作品を  
読見る

9

— 宮平清一 —



宮平清一《冬の国府台風景》1946年、油彩・カンヴァス  
99.5×92.0cm、豊島区蔵



2016年10月の国府台風景。江戸川  
から対岸にある和洋女子大学を望む。



『船橋及国府台近傍図』(部分) 1934年  
市立市川歴史博物館蔵

沖縄県渡名喜村出身の画家に宮平清一（一九二一—一九五七）  
がいます。宮平については、豊島区立高田中学校（現千登世橋  
中学校）で教鞭をとっていたこと以外、わかっていないことは多  
くありません。その宮平が残した作品を区では四点所蔵してい  
ます。いずれもかなり劣化した状態で保管されていましたが、  
修復を経て、このたび新しく生まれ変わりました。

その一つが《冬の国府台風景》（一九四六年）です。雲一つ  
ない冬の空と赤煉瓦造りの建物、冬枯れの木々が水面に映る何  
気ない日常風景が描かれます。黄味を帯びた空の青が、地面、  
建物の色と柔らかに調和し水面に溶けていきます。天を目指す  
木々が水中にも根を張り上下に伸びて行くかのような、不思議  
な生命力を感じます。

ただこの日常を切り取った風景画も、描かれた「一九四六（昭  
和二一）年」に着目すると、また異なる様相を帯びてきます。

タイトルが示す通り、描かれたのは千葉県市川市国府台の風  
景です。国府台には一八八五（明治一八）年から敗戦まで陸  
軍が駐屯していました。地形図『船橋及国府台近傍図』（部分）  
（一九三四年）を見ると、国府台周辺には野戦重砲兵第一連  
隊や野戦重砲兵第七連隊、騎砲兵大隊が駐屯し、西練兵場や陸  
軍射撃場があったことがわかります。敗戦後、空襲被害の少な  
かったそれらの軍用地と赤煉瓦造の兵舎は、学校施設や病院の  
建ち並ぶ現在の国府台へと姿を変えていきます。

当時の宮平は、一九四五（昭和二〇）年四月の城北大空襲で  
焼失した区域周辺の、豊島区権名町四丁目（現南長崎二丁目）  
に住んでいました。一方の郷里・沖縄は、地上戦と空襲で壊滅  
状態です。米軍による軍政が開始し、パスポート無しには帰る  
ことも出来ない「ふるさと」になっていました。

そのような状況下で描かれたのが《冬の国府台風景》です。  
なぜ国府台の風景なのか、それを知る術はありません。ただ敗  
戦後第一回目の日展で入選を果たす本作が、宮平の「戦後」を  
告げる記念碑的作品だったことは確かでしょう。（美術 清水）

# 連載「絵はがきは語る」(8) 「巢鴨監獄」から都市化が始まった

今から約一二〇年前の明治二八

(一八九五)年一〇月、北豊島郡巢鴨村大字巢鴨字向原(一部池袋村を含む)に、

「警視庁監獄巢鴨支署」が設置されました。

この前身は、江戸幕府の人足寄場を引

き継いだ石川島監獄署です。当初、南

葛飾郡亀戸村も候補に挙がっていまし

たが、「市街地ヲ離レ且土地高燥ニシテ、

囚徒ノ検束及衛生、又ハ火災等ノ憂無之

ノミナラス、土地買入代、地盤築造費等

ヲ減少スルノ利益モ有之」という理由で

巢鴨村に決定しました。市街地から離れ、

火災等の心配がないこと、地価も安く高

台で地盤がしっかりしていることから監

獄設置に相応しいとして選ばれたのです。

明治二十一年一〇月、土地買収の許可が

内務大臣山県有朋から下りますが、巢鴨

村の山口藤次郎ほか二七名の地主から買

収地価を一反歩平均一五〇円にしてほし

いとの要望が東京府に出されます。しか

し田地一〇〇円、畑地九〇円、山林萱

生地七五円で交渉が行われ、「何レモ異

議無之承諾」し、地元の反対なしに約

五万五千坪(約一八万㎡)の広大な土地

が監獄用地となりました(「稟申録一」(監

獄敷地買上)、『豊島区史』資料編四)。

明治三〇年には「巢鴨監獄署」となり、

三六年監獄官制の公布により「巢鴨監獄」

と改称し、司法省の管轄となります。

写真①は巢鴨監獄正門の絵葉書です。

英語表記なので外国向けに作られたもの

でしょうか。「FRONT GATE,SUGAMO

PRISON,TOKYO,JAPAN」とあり、正

門の左に「巢鴨監獄」の看板が掛かって

いることから、明治三六年四月以降に発

行されたものと推測されます。正門には

白い制服を着た男性二人と、馬車、人力

車が見え、門を入ると長いアプローチが

続き、その奥に監獄の玄関があります。

手前の広い道路は、監獄の設置に伴い整

備された、不忍通りに直結する通称「監

獄通り」です。その他に「GENERAL

VIEW」(全景)、「EXTERIOR VIEW

OF BLOCKS」(街区の外観)、「CELLS

AND CORRIDOR VIEWED FROM THE

CENTRAL WATCH STAND」(中央監

視台から見た独房と通路)、「KITCHEN

AND BATH ROOMS」(食堂と浴場)、「

HOSPITAL」(病院、写真②)の絵葉

書があり、従来の監獄の暗いイメージと

はほど遠い印象です。美しい西洋建築と

装飾の施された内部、整然と配置された

街路樹など、一般には立ち入ることがで

きない構内の様子を絵葉書で紹介するこ

とで、近代的で衛生的

な監獄のイメージを内

外に印象づけようと

う意図がうかがえます。

当時の巢鴨村は大根

畑が広がる近郊農村で

した。畑の中に出現し

た、煉瓦造の高い塀に

囲まれた巨大な監獄は、

地元住民にどう受け止

められたのでしょうか。

その後の巢鴨監獄の変遷をみると、大

正一一(一九二二)年に「巢鴨刑務所」

と改称し、翌年の関東大震災で大きな被

害を受け、昭和一〇(一九三五)年府中

に移転し、府中刑務所となります。跡地

は約三分の一に縮小され、市ヶ谷刑務所

が移転して「東京拘留所」となります。

昭和二〇年四月一三日の城北大空襲で

被災し、敗戦後の一〇月、東京拘留所と

周辺民有地がGHQに接収され、翌月「巢

鴨プリズン」となります(東京拘留所は

中野、のち小菅に移転)。A級・B級

戦犯の容疑者と有罪判決を受けた者が収

容され、死刑執行もここで行われました。

昭和二七年講和条約により日本側に

移管され「巢鴨刑務所」と改称します。

三三年戦犯が全員出所し、小菅にあった

東京拘留所が復帰し、三七年巢鴨刑務所

が廃庁します。その間、区は都市再開発・

副都心計画の中で移転推進運動を展開し、

四六年東京拘留所が小菅刑務所に移転し、

昭和五三年一〇月サンシャインシティが

オープンしました。以来、副都心池袋を

代表する観光名所となっています。

巢鴨監獄の変遷は、豊島区の都市化と

戦後の復興・再開発の歴史でもあったと

いうことができるでしょう。(郷土 横山)



写真① 巢鴨監獄正門



写真② 病院

# 柳下政衛家文書「万覚帳」にみる江戸の教科書

柳下政衛家文書「万覚帳」(①)は、江戸の雑司ヶ谷村で年寄・組頭を務めた柳下安兵衛が、さまざまなことを書きとめた覚え帳で、その内容は茄子苗・栗・柿・梅など換金作物の販売数量、代銭から名息子の婚姻を知らせる嫁取りの触りまで多岐にわたります。そのなかの「文政一一年二月寺子屋生徒の名前覚」(『豊島区史 資料編二』148頁)は、安兵衛が師匠をしていた寺子屋の入門者名簿で、「清土伝五郎倅(せいで)いろはより 柳下忠五郎寅拾三歳」というように、居住地・続柄・学習を始める教科書・名前・年齢が入門日別に文政一(一八二八)年二月から天保一(一八四一)年までの一四年間、一八三名分記載されており、江戸近郊農村における庶民教育の一端を知ることができる資料です。本号ではそのなかから教科書について探っていきます。

まず特徴として「表 入門年齢と教科書」(②)にみられるように、同じ教科書を使った学習でも、開始する年齢がばらばらであることが挙げられます。全体の六五・五%を占める「いろは」からの手習いも、早い子は六歳、遅い子は一三

歳から始めています。これは寺子屋の学習が現在の学校のような一斉授業形式ではなく、個々の筆子(ふでこ)の事情に合わせて師匠が教育内容を決めたいたためです。残りの筆子はそれぞれの学習段階にあつた教科書から学び始めました。「名頭」は、有名な姓氏の頭文字を列記した人名を読み書きするための教科書で、近世後期の流布本のほとんどが「源・平・藤・橘」から始まります。江戸城を中心に方角別に地名や神社仏閣を集めた『江戸方角』には、戌之方に目白不動、亥之方に大塚・巢鴨・雑司谷鬼子母神、北に駒込、染井などの名がみられます。『都路』は、江戸から京都に至る東海道の行程・名所・名物を集めた教科書で、他に中山道版などもありました。日本六十余州各国の名称を覚えやすいように記した『国尽』と合わせて、筆子たちは自分の居住地付近から徐々に広い範囲の地名や地理について学んでいきました。

「万覚帳」にはみられませんが、寺社参詣の大衆化に伴いその行程を書いた、名所案内としての性格を併せ持つ教科書も多く刊行され、豊島区域を題材としたも

のに筋違橋より鬼子母神に至る沿道を描写した『雑司谷詣』があります。手紙に使用される語句や例文を集めた『消息往来』は、より実践的な内容で人名・地名から語彙を増やした後に取り組んだと推定されます。また安兵衛の寺子屋は女子

の入門率が全体の四二%と高く、『女手習状』など女子用教科書も使用されています。これら江戸の教科書の一部は、近代以降にも改定を経て使用され続けており、江戸から明治へと続く豊島区域の教育を支えた知的基盤でした。

(郷土 甲田)



① 柳下政兵衛家文書「万覚帳」にみえる寺子屋の入門者名簿

教科書	いろは	いよ	名頭	夫今	都路	江戸方角	近道	女手習状	身持草	夕方	国尽	此しな	女消息往来	手紙文	一女子	奉公人	消息往来	記載なし	人数合計
6歳	4																		4
7歳																		2	2
8歳	12		1												1			3	17
9歳	31	2					1											3	37
10歳	36	1	1		2		1		1	1		1						2	46
11歳	23	2	2	1	1			3	3		1		1					1	38
12歳	6	2	2	1	1		1											3	16
13歳	2		1												1				4
14歳													1			1			2
不詳	6	1	2		1	1					1						1	4	17
人数合計	120	8	9	2	5	1	3	3	4	1	2	1	1	1	1	1	1	18	183

② 表 入門年齢と教科書 (『豊島区史 通史編一』1981表-90安兵衛寺子屋使用教材一覧をもとに作成)

# 「旧鈴木家住宅」の資料たち

## 第8回

鈴木信太郎の処女出版  
『シラノ・ド・ベルジュラック』

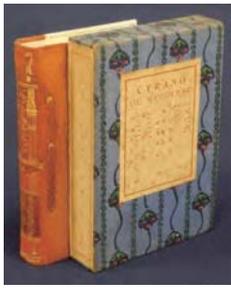
エドモン・ロスタン 著  
辰野隆・鈴木信太郎 共訳

本号では、鈴木信太郎の処女出版で、辰野隆との共訳『シラノ・ド・ベルジュラック (Cyrano de Bergerac)』(白水社、一九二二年、①)をご紹介します。

辰野が東大の文学部助教、信太郎が同講師として勤め始めた頃の刊行で、二人の恩師であるエミール・エックと、文豪、森鷗外が序文を寄せています。

『シラノ・ド・ベルジュラック』は、フランスの劇作家、エドモン・ロスタン(一八六八—一九一八)が一八九七(明治三〇)年に発表したロマン主義の戯曲で、パリ第一〇区にあるポルト＝サン＝マルタン座で名優コクランによって初演され、大成功を収めました。

物語の舞台は、一七世紀のフランス。主人公の剣豪詩人シラノ・ド・ベルジュラックは、実在した人物がモデルとなっています。彼は豊かな文才と強い正義感を持ち具えていましたが、その大きく特徴的な鼻ゆえに、人々に愚弄され、秘かに



①エドモン・ロスタン著『シラノ・ド・ベルジュラック (Cyrano de Bergerac)』辰野隆・鈴木信太郎共訳、白水社、1922年



②文学座8月公演パンフレット、エドモン・ロスタン著『シラノ・ド・ベルジュラック』辰野隆・鈴木信太郎共訳、1951年8月8日～9月2日、三越劇場

に恋する絶世の美女ロクサーヌにも思いを告げられずにいます。ある時シラノは、彼女から美しき青年ロクサーヌへの恋を打ち明けられ、二人の仲介役を頼まれてしまいます。このロクサーヌもまた、ロクサーヌに恋をしていたことから、シラノはついに自分の思いを告げることなく、二人の仲をとりもつことになるのです。ロクサーヌは、美貌の持ち主ではありましたが、文才に乏しく、ロクサーヌへの恋文はすべてシラノが代筆します。しかしロクサーヌの名で書かれたその美しい恋文は、シラノの彼女へ対する思いそのものだったのです。次第に彼女は、ロクサーヌの容姿よりも、彼女を思うその美しい文章に魅かれていきます。

物語自体はシンプルでわかりやすく、日本人にも親しみやすい内容のもので、一二音綴りの韻文で書かれた原文には、フランスの独特の表現や文化が散り

ばめられており、翻訳するには、フランスの語学に加え、文化や歴史に関する一定の知識を要する作品です。これを訳し始めた頃、まだ学生であった辰野と信太郎は、当時東大でフランス語学と文学の授業を担当していた、宣教師のエミール・エックに、授業でこの『シラノ・ド・ベルジュラック』の講読をやつてはくれまいかと頼み込んでいます。こうして一九一七(大正六)年秋から一年余り、エックによるシラノの講義が行われました。二人はこれを熱心に聴き、師の解釈を参考にしながら、どの部分をどちらが訳したのかわからなくなるくらい、何度もお互いの訳稿に手を加え、推敲を重ねながら、二年程かけて日本語に訳しました。

こうして翻訳された文章は、一九一九年一月から、翌年の三月にかけて、同人誌『玫瑰珠(ろざりよ)』の中で連載されます。そして一九二二年一〇月には、辰野隆・鈴木信太郎の共訳として、白水社から単行本が刊行されます。序文を寄せたエックと森鷗外は、二人のフランスの語学や歴史、文学に対する造詣の深さや、リズムカルで親しみやすい訳文を賞賛しています。『シラノ・ド・ベルジュラック』

ク』はその後、一九二五年に春陽堂で再版され、一九二八(昭和三)年には新潮社の世界文学全集で出版されました。

後にこの作品は、一九三一年に帝国劇場での上演を筆頭に、一九三四年には新宿の新歌舞伎座で、一九三五年には、日比谷公会堂で上演されます。その後は戦争を経験し、外国劇など全く受け入れられない国内事情となっていました。終戦後の一九五一年に初めて文学座が三越劇場で上演しました(②)。この公演は一か月を超え、ステージ数は五四回、二万九千余名の観客動員の記録が残されています。文学座ではその後も度々の上演を重ね、二〇〇七(平成一九)年の創立七〇周年の時には、二三年ぶりに上演されました。

次にこの戯曲が上演されるのがいつになるかはわかりませんが、その折には劇場にて、俳優演ずるシラノの美しい詞に耳を傾けてみたいものです。

(郷土 古賀)

【参考文献】『鈴木信太郎全集』補巻、大修館書店、一九七三年／『フランス文学者の誕生』鈴木道彦著、筑摩書房、二〇一四年

「旧鈴木家住宅」は、豊島区東池袋五丁目に所在する歴史的建造物で、正確には「豊島区指定有形文化財(建造物) 旧鈴木家住宅」という名称です。現在豊島区では、この建物を改修・整備して「(仮称)鈴木信太郎記念館」を開設する取り組みを進めています。

## 探偵小説家・飛鳥 高先生に聞く

あすかたかし

去る一〇月二日、文学・マンガ分野では、(仮称)芸術文化資料館開設準備の一環として、探偵小説家である飛鳥高氏に聞き取り調査を行いました。

飛鳥氏は、一九二二(大正一〇)年二月一二日に山口県に生まれ、探偵小説雑誌『寶石』の第一回懸賞募集に入選、一九四七(昭和二二)年、入選作の「犯罪の場」が同誌一月号に掲載されデビューしました。建築技師でもあった飛鳥氏は、一九四九(昭和二四)年、結婚を機に豊島区池袋に転居しますが、その場所は偶然にも江戸川乱歩(らんぽ)の隣でした。その後、戦後の仮住まいとして同地で約一五年生活しています。

今回は聞き取り調査の内容の一部を抜粋してご紹介いたします。



飛鳥 高氏 (2016年10月11日撮影)

### 【江戸川乱歩邸でのお酒の付き合い】

飛鳥 (私は) あんまり作家の人と付き合い合っていないから。乱歩さんの家の隣にいたから、たまに隆太郎さん(乱歩のご子息)の奥さんの静子さんが「皆さんお見えになりましたからいらっしやいませんか。」と呼んでくれる。

——声をかけて下さるのですね。

飛鳥 乱歩さんのところに来る人は、当時探偵小説のうんちくが非常にある人なんです。それでうんちくをね、しゃべるわけ。とうとうと。こっちは聞いたって何言ってるんだか分からない。主に外国の作家の作品とかなんとかね。もうだいぶ昔だからうろ覚えだけど。そんなことを話してるんですよ。だけど僕は全然それが分からんからね、ただひたすら座って承っているだけ。まあこれは随分来たわけではなくてほしい五人前後だったかな。

### 【江戸川乱歩の人柄について】

飛鳥 「とにかく自分が面白いものを書きなさい。」と。「自分が面白いと思わないものは人が面白く思うわけがない。自分が面白いと思つたって、他の人は面白く思わないかもしれない。それは運だよ。運だから君の責任じゃない。」って言うんですよ。だから、「一般の大衆の好

むものと自分の好むものが合ってるかどうかというのはそれは運なんだと。合つてりゃ売れる。合わなきゃ売れない。」そういうようなことは言っていました。

——売れる本を書けというわけではなくて、自分のいいもの、面白いものを追求しろという方なのですね。

飛鳥 そうそう。割とリアリストなところがあるんですよ。ある時ね、乱歩邸だったかな、若いマニアの人が二人ほど来て、「自分たちのグループで探偵小説の同人雑誌を作りたいが、いかがでしょうか。」って乱歩さんに伺いを立てた。たまたま僕はそこにいたんでね。乱歩さんが言うのは、「結構な話だけど、一冊目は必ず出るだろう。しかし二冊目が出るかどうかが問題なんだ。」ってね。続けるかどうかが問題だつて。それは難しいよつて言つたの。

——飛鳥先生から見て乱歩さんはどういう方でしたか。

飛鳥 やつぱりね、そういう温かい人ですね。温かくて、ようするにリアリストなところもあるし。探偵小説が好き、それで作家を育てようという気持ちがとても強い。だから探偵小説こそあの方の世界だよ。まあ随分皆世話になつていてと思う。僕なんか一番世話になつた方か

もしれないけど。具体的に、ああしろ、こうしろとは言わないけれども、何とか育ててくれる。

### 【自身の創作活動について】

——縮切で苦労されたことはありますか。  
飛鳥 いや、割と僕は計画的だから。まあそれが理科系ですから。だから時間をちゃんと計つて書いてたから。そうねえ。どういうものを書くか苦労したことはあんまり覚えてないけども。まあ、あんまり縮切を遅れたつてことはなかったね。割とちゃんとやつてたね。

——創作する上で心がけていることはありましたか。

飛鳥 ない。今思い出すと、若い頃に探偵小説だけじゃなくて、色々な小説を読んだ。森鷗外(もりおうがい)とか、あと志賀直哉(しがなおや)が好きだった。あれの文章がいいなと思つて、憧れてたんですよ。だから俳句みたいにさ、全部を書かないで読者に想像させるとかね。(括弧内は稿者補)

今回ご紹介した内容は、聞き取り調査のごく一部です。ミュージアム開設後は常設展示などで詳しくご紹介していく予定ですので楽しみにしてください。聞き取り調査にご協力下さいました飛鳥先生には心より感謝申し上げます。

(文学・マンガ 安達)

# 昔話とむかしの道具 ―ふんぶくちやがま―



「ふんぶくちやがま」という昔話があります。ある古道具屋が、茶を淹れようと商品の茶釜に水を入れ火にかけると、不思議なことにその茶釜が「熱い！熱い！」としゃべりだし、毛むくじやらの手足や尻尾が生えてきました。茶釜の本体は狸が化したもので、火の熱さに堪らず姿を現してしまったのです。古道具屋は、半分だけ茶釜に化したまま元の姿に戻れなくなってしまう狸を哀れに思い、共に暮らすことにしました。すると狸は「見世物小屋を作れば芸をしてみせましょう」と言うので、古道具屋がその通りすると、狸が綱渡りなどを披露して見世物小屋は大盛況。そのおかげで古道具屋は大層豊かになった、というお話です。この昔話の元になったと言われる伝説に登場する茶釜が、群馬県館林市の茂林寺に伝わっています。

「むかしむかし、あるところに」という語り口で始まる昔話には、様々な動物、そして道具が登場します。昔話が面白いのは、人々の生活のなかで実際に使われている道具が、お話に親近感をわかせているからではないでしょうか。

郷土資料館には、このような昔話に登場する道具が多く収蔵されています。写真①の茶釜もその一つです。茶釜は、ふんぶくちやがまでも見られるように、茶をたてるときに湯を沸かすための道具です。茶道具の一種なので、鑑賞の対象でもありません。現在でも、茶会の席などで実際に使われている姿をみるることができます。錆により見えにくくなっているものの、写真①の茶釜にも、表面に草花模様のような装飾が施されていることから、観る楽しみも味わえる道具であったことがわかります（本体表面拡大、写真②・③）。本体部分は鋳物で、木製の蓋は一部欠損していますが、取手が三又になっっている珍しい形状です。鍛付と呼ばれる釜を持ち上げるための輪が二つ付いており、底には実際に火にかけていたと思われる黒く焦げた炭の跡も見られます。茶釜には様々な形状のものがありますが、写真①の茶釜には、米を炊くための釜のような大きな羽があり、風炉の火の熱を逃がさない機能性も兼ね備えているようです。

茶釜の多くは金属であるため、時間の経過とともにどうしても錆びやすくなってしまう。ひび割れや表面の剥離などが無いが、劣化や破損がある場合はどのような保存処理をするのか、古い道具を多く収蔵するうえで、郷土資料館が考えていくべき重要なことです。道具を大切にしていれば、やがてこの茶釜も火にかけたとき、尻尾が生えてくるかもしれません。（郷土 岩崎）



①



②



③

## 編集後記

『かたりべ』一二二号をお届けいたします。今年もいよいよ最後の月を迎えました。

先日開催しました豊島区ミュージアム開設イベント第五弾 豊島ミュージアム講座には、たくさんの方々にご参加いただき盛況に終えることができました。この場を借りまして御礼申し上げます。

さて、来る一二月一六日より、豊島区役所三階北側廊下にて、「駒込染井の植木屋とソメイヨシノ」をテーマにパネル展示を行います。江戸の緑地空間を支える植木屋たちの姿を紹介し、「区の木」に指定されている桜の品種の一つであるソメイヨシノについて、その由来と研究動向をわかりやすく説明しておりますので、ぜひご覧ください。

最近では、昔住んでいた場所や詳細な住所についてのお問い合わせが増えています。古地図を片手に豊島区に訪れる方もおられるようです。こういった件は、郷土資料館（豊島区南大塚2-36-12）にお尋ねいただければ、すべての住所を特定できるわけではございませんが、ご協力できるかもしれません。豊島区ゆかりの資料についてのご相談もお待ちしております。（編集 高木）

かたりべ  
No.122

2016年12月2日

豊島区立郷土資料館  
(休館中)

東京都豊島区西池袋2-37-4  
豊島区立勤労福祉会館7階

電話 03-3980-2351

URL : <http://www.city.toshima.lg.jp/bunka/bunka/shiryokan/index.html>